

## 血圧レベルから脳卒中死亡および冠動脈疾患死亡の生涯リスクを算出

生涯リスクとは、生涯に対象疾患に罹患する確率で、長期的な絶対リスクを示すものである。アジア人の集団において、脳卒中死亡および冠動脈疾患死亡の生涯リスクを算出した研究はほとんどない。本研究では、日本の大規模データベース EPOCH-JAPAN（個人レベルのデータを統合した、循環器疾患予防のためのエビデンス）を用い、脳卒中死亡および冠動脈疾患死亡の生涯リスクを算出した。

メタ解析には 13 のコホートから 107,737 例の日本人（男性 42.4%、平均年齢 55.1 歳）が対象となった。平均追跡期間 15.2 年の間に、脳卒中で 1,922 例、冠動脈疾患で 913 例が死亡した。35 歳時点での脳卒中死亡の生涯リスク（男性/女性）は、至適血圧群で 6.1%/4.8%、正常血圧群で 5.7%/6.3%、I 度高血圧群で 9.1%/7.9%、II 度高血圧群で 14.5%/10.3%、III 度高血圧群で 14.6%/14.3%であった。冠動脈疾患死亡の生涯リスクも、血圧の上昇とともに高くなったものの、脳卒中死亡の生涯リスクよりは低かった（7.2%以下）。

したがって、日本人において血圧レベル別の脳卒中死亡および冠動脈疾患死亡の生涯リスクを算出したところ、血圧の高さがその生涯リスクの上昇と明らかに関連していた。また、冠動脈疾患の生涯リスクは脳卒中の生涯リスクの 2 分の 1 であった。今回の結果は、若年の高血圧患者に対し、早期からの生活習慣の改善と降圧治療開始の動機付けに役立つと考えられる。

出典：Hypertension. 2019; 73(1): 52-59.